

奈良大学大学院 文学研究科 修士論文審査基準

審査体制

本研究科は、学位の申請に対し、学位論文の受理の可否を決定し、指導教員（主査1名）及び論文に関連のある教員（副査2名）による審査委員会を設け、審査を行う。ただし、修士の学位の審査委員会については、当該研究科委員会が認める場合には副査を1名とすることができる。

審査内容

国文学専攻

提出論文を中心として専攻分野について精深な学識と研究能力を確認するため、主査と副査による査読及び口述による審査を行う。

文化財史料学専攻・地理学専攻

提出論文を中心として専攻分野について精深な学識と研究能力を確認するため、主査と副査による査読及び口述又は筆記による審査を行う。

審査基準

国文学専攻

1. 課題設定の妥当性：研究目的が明確で、課題設定が適切になされていること。
2. 情報収集の適切性：当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータや資料の収集が適切に行われていること。
3. 研究方法の適切性：研究の目的を達成するためにとられた方法が、データ・資料・作品・例文などの処理、分析、解釈の仕方も含めて、適切かつ主体的に行われていること。先行研究に対峙し得る発想や着眼点があり、それらが一定の説得力を有していること。
4. 論理構成の妥当性：全体の構成も含めて論旨が一貫しており、当初設定した課題に対応した明確かつオリジナルな結論が提示されていること。
5. 論文作成の能力：論文全体が的確な文章によって執筆されており、要旨・目次・章立て・引用・注・図版等に関する体裁が整っていること。

文化財史料学専攻

1. 研究テーマの適切性：研究目的が明確で、課題設定が適切になされていること。
2. 情報収集の適切性：当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータや史資料の収集が適切に行われていること。

3. 研究方法の適切性：研究の目的を達成するためにとられた方法が、データ・史資料・作品・例文などの処理、分析、解釈の仕方も含めて、適切かつ主体的に行われていること。先行研究に対峙し得る発想や着眼点があり、それらが一定の説得力を有していること。
4. 論旨の妥当性：全体の構成も含めて論旨が一貫しており、当初設定した課題に対応した明確かつオリジナルな結論が提示されていること。
5. 論文作成の能力：文章全体が確かな表現力によって支えられており、要旨・目次・章立て・引用・注・図版等に関しての体裁が整っていること。

地理学専攻

1. 研究テーマの適切性：研究目的が明確で、課題設定が適切になされていること。
2. 情報収集の適切性：当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータや資史料の収集が適切に行われていること。
3. 研究方法の適切性：研究の目的を達成するためにとられた方法が、データ、資史料、地図などの処理・分析・解釈の仕方も含めて、適切かつ主体的に行われていること。先行研究に対峙し得る発想や着眼点があり、それらが一定の説得力を有していること。
4. 論旨の妥当性：全体の構成も含めて論旨が一貫しており、当初設定した課題に対応した明確かつオリジナルな結論が提示されていること。
5. 論文作成の能力：文章全体が確かな表現力によって支えられており、要旨・目次・章立て・引用・注・図版等に関しての体裁が整っていること。